

(学年) 第1学年、(教科・科目) 看護科・基礎看護

一斉学習

(単元) (3) 日常生活の援助 キ 清潔と衣生活

(本時のねらい)

5年一貫過程の1年生である生徒たちは、学び始めた看護への興味・関心が高く、自己の明確な進路実現のため、前向きに一生懸命努力することができている。2学期に入り学校生活にも慣れてきている時期であるが、入学当初の気持ちを大切に、学びへの意欲を維持・向上させることができるような関わり、指導が重要だと考える。

身体を清潔に保つことは、生理学的にも日常生活習慣においても欠かすことができない。しかし、活動耐性の低下や麻痺などの障害、治療上の制約から、患者は自分自身で自由に清潔を保つことができない場合がある。その際には患者の状態によって入浴や部分浴、清拭などの方法を選択する判断基準を考え、病状の悪化を防ぐ必要がある。そこで、清潔援助を行う基礎知識と基本的な技術を身に付け、ただ援助方法を理解するだけでなく、患者の状態を踏まえた方法選択の視点や看護の必要性を考えさせたいと思い、本単元を設定した。

(ICT活用方法)

少しでも患者の状態をイメージしやすいよう視覚的な教材の充実を図り、挙手をして発言することが難しい生徒も一人一台端末を使用することで意見交換や協同的な学習ができることを期待し、活用する。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・本時の学習内容について理解する。	・本時の目標、学習内容について説明する。	
展開 40分	・清潔援助の効果について理解する。 ・1事例の患者に対し、適切な清潔援助は何か考え、授業支援クラウドアプリに記入する。	・解剖学的な知識を交えて、日常生活と関連させながら少しでも生徒がイメージできるよう根拠を持って説明する。 ・まずはクラス全員で1事例の患者の状態に応じた清潔援助の方法選択の視点を確認させる。	・まずはクラス全員で1事例の患者の状態に応じた清潔援助の方法選択の視点を確認し、授業支援クラウドアプリに記入させる。

	<ul style="list-style-type: none"> 1 事例の患者に対する適切な清潔援助をグループで考え授業支援クラウドアプリにまとめる。 アンケートシステムでクラスの入浴の実態を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 人 1 組の 5 グループを作成し、患者の状態に応じた最適な清潔援助の方法を考え記入させる。 事前課題の清潔行動に関するアンケート結果を電子黒板に提示し、個別性（その人らしさ）を尊重することの大切さを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 人 1 組の 5 グループを作成し、患者の状態に応じた最適な清潔援助の方法を考え記入させる。 事前課題の清潔行動に関するアンケートシステムでのアンケート結果を電子黒板に提示し、個別性（その人らしさ）を尊重することの大切さを伝える。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめを聞き、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を振り返らせる。 	

(授業の様子)

事例 1

- Aさん 70歳代 女性
- 眩暈のため入院加療中
- 安静度は制限なし
- 今朝のバイタルはT=37.6℃、P=81回/分、BP=129/84mmHg、SPO2=97% ⇒現在 T=36.9℃
- 眩暈、頭痛症状が今も少しある
- 足の筋力が弱く、移動は看護師介助のもと車いすを使用している
- 「3日間お風呂に入っていないで頭が痒いので、シャワーを浴びたい」と話す

① 個人で取り組んだもらった事例

事例 1 で適切だと思う清潔援助

ベクトルで書く

上記を選択した理由

足の筋力が弱く、おまひもしているため、なるべく移動は避けつつ患者さんの意向にそわたいと思った

② 生徒が記入したワークシート

- ・Bさん 80歳代 男性
- ・今朝のバイタルはT=37.2℃、BP=140/90mmHg、HR=80回/分、SPO2=99%
- ・左半身に麻痺があり、発語もみられず1日のほとんどをベッド上で過ごし、着替えや食事など日常生活のほとんどに介助を要する
- ・座位保持は困難であるため、移動は看護師介助のもとストレッチャーを使用
- ・安静度の制限なし

Bさん	
清潔援助	清拭、ベッド上の洗髪
理由	寝たきりで、立位保持・座位保持が難しいから。 体温・血圧が高いから。 左前腕に持続点滴があり、入浴・シャワー浴が困難だから。 1日のほとんどをベッド上で過ごし、体力が少ないから。

③ グループで取り組んだ事例

④ グループで記入したワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

これまで対面や紙教材だけでは把握することのできなかつた児童生徒1人1人の個性を見いだすことがICT教材を使用することで可能になったのではないかと感じる。一人一台端末への入力時間をもう少し設定すればよかった。個別最適化の学習が一層推進されるよう、より良い学校環境作りを支援する必要がある。